

## ロシア凸凹珍道中(2015年7月2日(木)~9日(木))

今泉陽一

なぜ急にロシアにと聞かれると、説明は必要だ。

僕のアドレスが高校同期のML(メーリングリスト)に入っているのだ。

そこに「今度、ロシアに旅行しようと思うのですが、一緒に行く人はいませんか。それも一流ホテルに泊まって、しかも格安で」というメールが発信されてきたのだ。その発信人Tさんという名前は聞いたことがあるのだが、同じクラスになったこともないし、多分言葉を交わしたこともない。でも、「格安」という言葉に強く惹かれて、僕も行きたいという返信をしたから、多分、Tさんもびっくりしたはずだ。

参加者は最終的に6名。Tさんとその彼女、Mさん夫妻(奥さんの方が同期生で名前と顔は一致するが、やはり言葉を交わしたこともない)、そして僕と妻で行くことになったのだ。

旅行の段取り(航空券・ホテル)は、すべてTさんがやってくれた。パウチャー及びビザの取り方まで指南してくれた。ロシアの場合、ビザを取るのにパウチャーという旅行会社の証明書が必要だが、麻布・狸穴のロシア大使館領事部に行くと、簡単に取得できた。

さらに、モスクワからサンクトペテルブルクまでの鉄道700キロ、日本で言えば新幹線、サブサン号の格安チケット、それもプレミアシート、サンクトのミハイロフスキー劇場のバレエ「白鳥の湖」



1 : STARBUCKS はロシア語で標記になる。URL.  
[http://trip-nomad.com/img/2014/russia/starbucks\\_martyoshka026.jpg](http://trip-nomad.com/img/2014/russia/starbucks_martyoshka026.jpg)

の格安チケット、エルミターージュ美術館入場券の事前取得(普通に並ぶと何時間も待たされる)。すべて手配してくれたのだ。こいつ、いったい何者?

お互い顔も知らないまま、いきなり空港で出会って行くのはいかがなものか。ということで、事前に、新宿のファミレスで顔合わせ兼情報交換会を実施した。

不思議に何となく打ち解けて、気心が知れた感じ。持っていく荷物、充電用コンセント、携帯電話、着るもの等々について情報交換した。

航空機に荷物を預けると出てくるまで時間がかかるから、キャリーバッグのサイズは機内持ち込み(ホームページ情報で3辺の和が115cm、重さ10kg以下)で、全員合意した。

現地での行動計画書が手渡された。Tさんの手作りで綿密。メトロは何番目の駅で降りるとまで記載してある。実際、現地で非常に役に立つのだが・・・。

ともかく、旅行社を介さないツアー、現地で日本語ガイドをあてにしない、6人ともロシア語が話せない、多少は勉強していくけどキリル文字も読めない。

さて、この旅の経過はいかに。結末までご紹介いたしたたく、ということで、出発日を迎えることになった。

7月2日(木) 晴れ

いよいよロシア旅行の始まりだが、期待40% 不安60%。

さて、どうなることやら。

08:30 成田第一ターミナル北ウイングに到着。

搭乗は12:00発のSU263便。ちなみにSUはソビエト連邦(Soviet Union)のことで、そのままアエロフロート航空のIATAコードになっている。

ともかくクレジット会社のラウンジで待つことにした。僕が持っているビザカード・ゴールドでは、同伴者が入れないが、妻が持っている三菱のカードは同伴者もオーケー。そちらでコーヒーを飲みながら時間調整する。

約束の待ち合わせは10:00。しかし全員6名9:30に集まった。

ロシアルーブルへの両替は、Tさんの説も通説もロシアのほうが得とのことだが、現地では時間や言葉の問題もあり、不安なので、成田で両替しておくこととした。1RUB(ロシアルーブル)=2.72JPY(日本円)

10:15 チェックインカウンターに並びチケットを受け取り、荷物チェック、出国審査。再度、荷物セキュリティチェック、身体検査。

11:30 搭乗。

12:00 予定通り離陸。

座席のポケットには説明書がない。AV機器はあるのだが、使い方はわからない。使えない。雑誌・カタログすべてロシア語。この先10時間何をしたら良いのか。

13:00 トイレ

13:20 ランチ ビーフ中心のもの『ビーフ(デミグラスソース)、ライス、ポテト・人参の茹でたもの、すし(山葵なしサーモン・タクアン巻2)、サラダ(ハム・ソーセージ・レタス・ミニトマト)、パン、デザート(チョコケーキ)。まあまあなお味。

13:50 気流が悪く、ホットドリンクサーブ見合わせ。

14:05 ホットドリンクサーブ(コーヒー)

やっと、座席の前の機器の使用方法が分かったので、音楽(カーペンターズ・ビージーズ・プレスリー・サイモンとガーファンクル)を聴きながら、ロシア語の復習をしようと試みたが、集中力がなく、右から左に抜けていく。

17:00 トイレ アイスクリームサーブ



2 座席のポケットには説明書がない。AV機器



3 シーフードパスタ

18:45 ドリンク(オレンジジュース)

19:15 夕食 シーフード中心のもの『シーフードパスタ(うどん・エビ・貝・白身魚等)、チキンサラダ(チキン・野菜・オリーブ)、パン、チョコクッキー』味はまあまあ。パスタの味が濃いかも。

19:45 ホットドリンク(コーヒー)。

AV の使い方も理解できたので、サッカーのゴールシーンやボクシングを見る。うつらうつらしながら視聴。

こから、ロシア時間に変更。-6時間の時差。

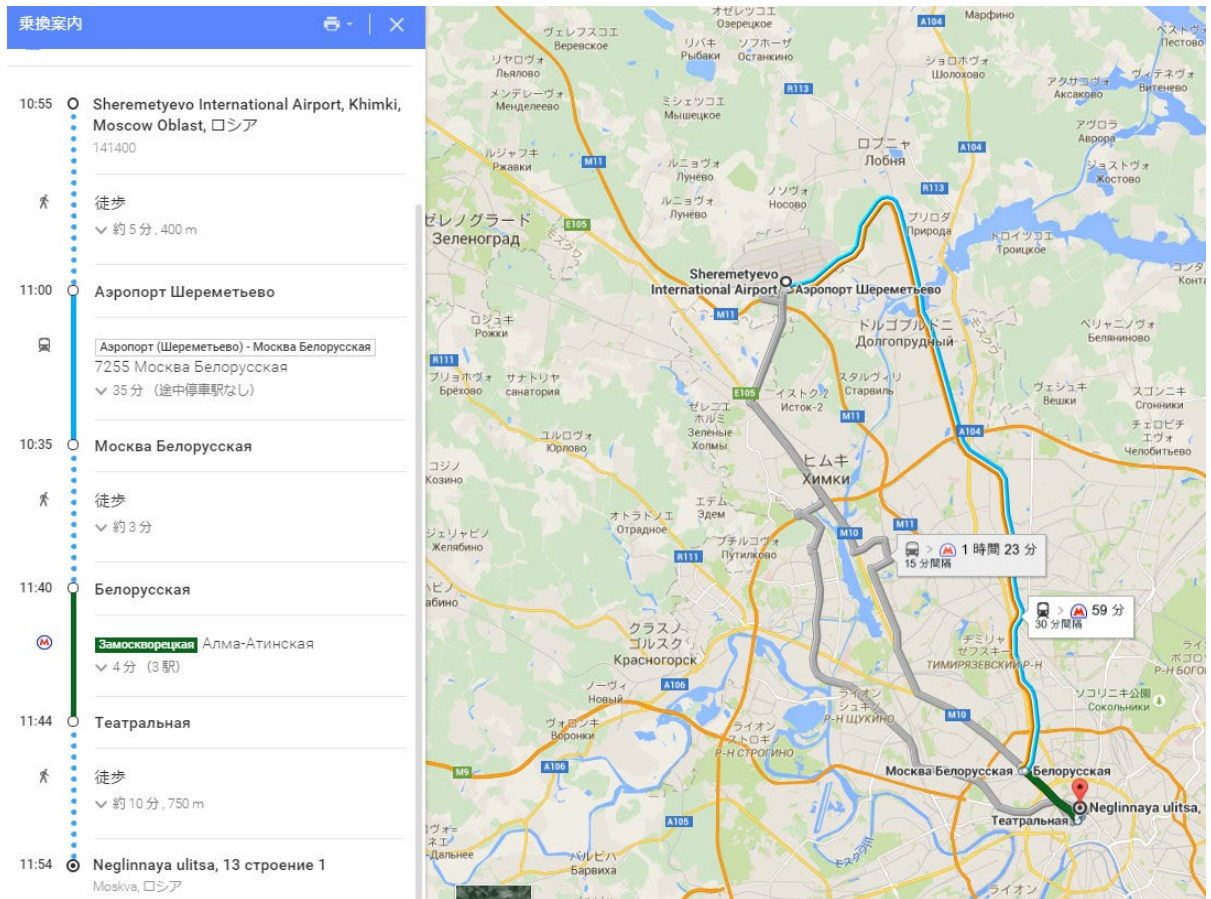
7月2日15時(日本時間21時)着陸態勢に入るが、気圧で耳(鼓膜)が圧迫され痛い。

15:20 陸地が見え始めると同時に、耳の痛みが薄れる。

15:35 ランディング。無事モスクワ・シェレメテヴォ空港に着陸。

15:50 入国手続 一言もしゃべらずオーケー。

でも、ここから先は、そう簡単ではなかった。



4: シェレメテヴォ空港からホテルのある市内のベラルूसキーまでは、徒歩⇒アエロエクスプレス⇒徒歩⇒地下鉄 2 号線⇒徒歩⇒目的地となる。駅構内に案内板(サインが見当たらない。みんなでボディと英単語で聞きまわった。

空港からモスクワ市内のベラルूसキー行のアエロエクスプレスに乗らなければいけないのだが、乗り場がなかなか見つからない。

16:15 なんとか自販機でチケットを購入したが、乗り場がどこか? 結構遠い。

16:30 ベラルースキー行の急行に乗車。途中、にわか雨(結構土砂降り)。

17:05 ベラルースキー駅に時間通り到着する。メトロのベラルースカヤ駅が分らずここでもうろうろ。ロシア人に「メトロ。メトロ。」と、チケットの購入方法も聞きながら、何とか5回券(180p)が購入できた。メトロの表示板は赤いMで「マック」に似ている。

改札は自動。しかし乗り場までは長くて深い。新宿駅南口から京王線新線新宿・大江戸線のプラットフォームにいく感じ。ただしエスカレーターは転びそうなくらい速い。エスカレーターの歩行はお勧めできないが、東京では右側で歩く。モスクワの地下鉄は大阪と同じで左側で歩き、右側は歩かない。それと地下鉄駅は見るからに頑丈で立派。Tさんは災害対策と説いたが、Mさんによると、冷戦期の核戦争対策で核シェルターを兼ねているとのことであった。



5 ボリショイ劇場前(劇場広場)で記念撮影

17:20 メトロ乗車。駅の駅名表示が分かりにくい。車内案内も聞き取れない。あらかじめ何駅目に降車と認識しておく必要あり。Tさんの計画表がさっそく役に立つ。

17:30 3駅目のチェアトラリーリナヤ駅に到着。長いエスカレーターを上がり、出たところが目指していたボリショイ劇場の横で、ラッキー。キャリーバッグを引きながら、ボリショイ劇場前(劇場広場)で記念撮影。

徒歩で、地図を頼りにホテルに向かう。ツム百貨店横を通過し、ホテルに到着した。

## 7月2日(木) 晴れ・現地時間

18:00 ホテルピョートル1にチェックイン。早速、部屋に行き、荷物を置き、簡単な着替えをして、待ちろ。まだま

18:3  
ヤート駅か  
プーシ  
え、救世主  
で、アレク



6 大聖堂前ライオン像で記念撮影

合わせ場所のホテルロビーへ。日没は22:00ごだ明るい。

0 ホテルを出発。メトロ1号線オホートヌイ・リから2つ目のクロポトキンスカヤ駅で下車。

キン記念美術館を目指す予定が、出口を間違キリスト大聖堂の前に出てしまい、せっかくなのサンドル2世とライオン像の前で記念撮影。

0 再度、出口を探しプーシキン記念美術館に。

19:0

ただしお目当ては本館ではなく、印象派の絵画満載のヨーロッパコレクション部門。今日は木曜日、21時まで開館している。入館時のチェックは厳しく、荷物の中身は全てチェックされ、リュック等は預けなければならない。20時まで約1時間自由行動にしてもらったが見切れるかな。

このプーシキン記念美術館のヨーロッパコレクションは、19世紀後半から20世紀初頭に活躍した二人のロシア人収集家、セルゲイ・シチューキンとイワン・モロゾフの貢献による。シチューキ



7 マティスの「金魚」

ンはマティスやピカソのスポンサーであったことで知られている。

3階から見始める。フラッシュはダメだが写真撮影はOK。さっそくマティスの「金魚」の前で妻を入れて撮影したが、発光してしまう。買ったばかりのカメラで、フラッシュが発光してしまう。監視員に注意を受け慌てた。発光させない方法が分からない。やむなく撮影を中止に至った。残念至極である。

作品は、評判通り、素人の僕でも感動してしまう。後期印象派のマティス、ゴッホ、ゴーギャンを始めとしてセザンヌ、アンリ・ルソー、モネ、ドガ、ルノワール、ピカソ、シャガール、ピカソも、ロダンの彫刻もアクセントを与えてくれる。さらにバルビゾン派のミレー、コロー、クールベもこれでもかという感じで登場してくる。

とにかく、「素晴らしい」の一言。1時間があっという間であった。

20:00 荷物を受け取り、本館へ向かうが、閉館1時間前を過ぎ、入館できず。外から荘厳な建物の外観を写真撮影。

プーシキン記念美術館本館は、1912年モスクワ大学教授イワン・ツヴェターエフによって創設された総合美術館。古



8 プーシキン記念美術館本館

典主義様式の建物は、ローマン・クラインの設計で建てられた。ただ、もともと美術史の学習を目的として開設された美術館なので、展示されている彫刻美術の大半が模造であると言われている。従って、外国人旅行者は、ヨーロッパコレクション部を見学しても、こちらに来ることは少ない。間違えて来場する人はいるらしいが……。

予定では、赤の広場の夜景を見ながらホテルへ戻るとあるが、まだ明るく夜景まで時間がある。でも疲れていたのでも、そのまま徒歩で戻る。

21:00 ホテルの手前のカフェ「Les artist」で軽く夜食。のどが渇いていたので、ビールがおいしい。どういう意味か分からないが、注文したビーフサンドにナイフが上から刺さっていた。パンに塗る赤いペーストが面白い味、何だろう？赤カブかな？

22:00 やっと外も暗くなってきた。それぞれホテルの部屋に戻る。ホテルの部屋は、さすがに五つ星だけあり、広くゆったりしている。浴室も、湯船が広く、ゆっくりつかることができるので、幸せな気分。

今日は、6時間の時差分活動時間が長く、朝も早かったのでも、とても疲れた。



9カフェ「Les artist」夜食

## 7月3日(金) 晴れ

04:30 何故か早く目が覚めてしまった。異国で、興奮しているのかな。今日の予定の確認と準備をする。

07:00 朝食バイキングの開始時刻。待ってましたばかり、直行。連れの2組は、すでに先着でした。洋食のバイキングで種類も豊富、整然としてきれいだし、スタッフの対応も良い。中でも、パンのバラエティーにはびっくり。果物・シリアルも。食べ過ぎてしまいそう。



10 パンのバラエティーにはびっくり

08:15 部屋に戻り、準備。暑くなりそうなので、僕の定番である短パン・Tシャツ・リュックのいでたち。

08:30 ホテルを出発。ポリショイ劇場前(劇場広場)から道路を渡り(横断歩道がないので命がけ)、マルクス像(大きく立派)を写真に収め革命広場、マネージ広場を経てクレムリン入場へ。(上手くいくと良いけど。)

途中、無名戦士の墓でちょうど衛兵の交代に巡り合い、大きく足を前に高く上げる歩き方をする場面を見ることができた。

09:00 チケット購入班と入場門(ボロヴィツカヤ塔)に並ぶ班に分かれ、準備万端?

チケット購入(500P)、ボロヴィツカヤ塔へ行き合流。並んでいると、今度は荷物(リュック等)持ち込み不可で、預けて来いと言われ、トロイツカヤ塔(工事中)へ戻り、荷物を預ける。(前途多難)

09:37 ボロヴィツカヤ塔から入場。荷物のチェックは厳しい。入場し、武器庫の入口を探すも、「あっちだ、こっちだ」を繰り返され、やっと分かったが、チケットは事前購入だと言われる。(ガイドブックには入場してから別に購入と書いてあったのに。)

仕方なく、一旦武器庫への入場を諦め、クレムリン内を先に観ることにした。

10:05~10:50 ソボールナヤ広場で、それぞれ自主見学とする。大砲の皇帝に集合とした。

時間が限られているので、急いで回らなければと、ブラゴヴェシシエンスキー大聖堂(内部も)、アルハンゲルスキー大聖堂(内部も)、ウスペンスキー大聖堂(内部も)、パトリアーシェ宮殿(内部も)、イワン大帝の鐘楼、鐘の皇帝を見て、集合時間に大砲の皇帝に。大聖堂の中に案内のパンフレットが備えてあるが、日本語版のものはない。中国や韓国のものはあるのに、どうしてなのかな?



11 無名戦士の墓でちょうど衛兵の交代



大聖堂の内部は、イコンが所狭しと描かれており、素晴らしいが余り多いと若干食傷気味。また、人が多すぎて(特に中国人団体客ばかりが目立つ)、荘厳な雰囲気がち壊しである。

集まったところで、トイレへ。まるで捕虜収容所(実際は知らない)のように、女性の指揮官が命令をしてトイレを使わせる。男女共用だし、汚くて便座に座れないよ。

11:00 そこから、クレムリンには場違いに思われるガラス張りのクレムリン大会宮殿を左に見ながら、トロイツカヤ塔の出口へ。

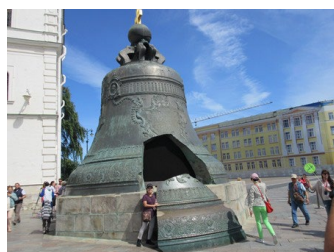
11:05 武器庫のチケット購入班と赤の広場見学班に分かれ、11:50ポロヴィツカヤ塔に集合することとした。

(赤の広場見学班)

11:10 アレクサンドロフスキー公園を横切り、国立歴史博物館の横から赤の広場へ。

ロシア語でクラスナヤ(美しいという意味)・プローシャチということで、右手にクレムリン(城塞)の壁、左手

に Gum百貨店(凄く大きく立派で幅広な歴史的建造物)、正面がワシリー聖堂のロケーションは見事である。広場は、かなり凸凹がある石畳で、車椅子では大変そう。相変わらず、中国人観光客が目立つ、というより彼らに占拠されている感じ。

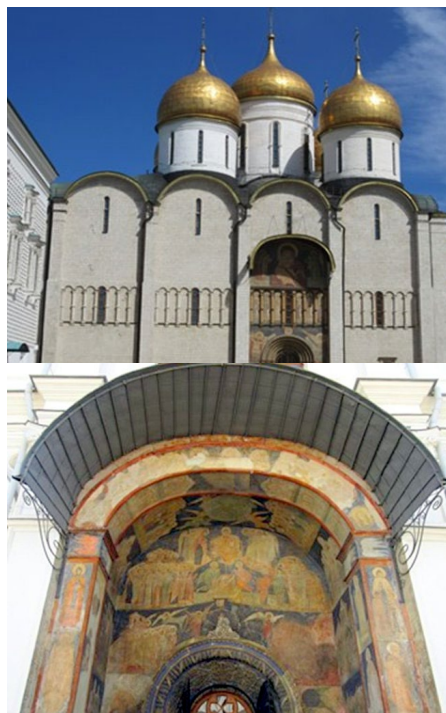


13 鐘の皇帝

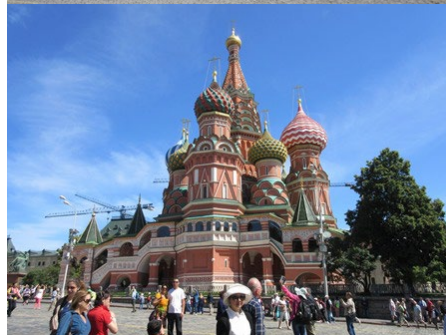
国立歴史博物館、ヴァスクレセンスキー門、カザンの聖母聖堂の写真を撮り、前に進む。クレムリンの大統領府にロシア国旗がでているのは、プーチン大統領が来ている時とのことだが、本当かな? 壁の真ん中あたりにあるレーニン廟は、今日は休みで入場不可だが、遠くからスターリンと思しき像を撮影できた。

さらに先に進むと、赤いルビーがはめ込まれているというスパースカヤ塔から、ここで一番の目玉のワシリー聖堂に。ディズニーランドを想わせるファンタジックでカラフルなネギ坊主聖堂は、いくら見ても飽きない。

待ち合わせ時刻が迫ってきたので、急いでステン



12 ウスペンスキー大聖堂



14 赤の広場とワシリー聖堂

カ・ラージンが八つ裂きの刑に処されたというロブノエ・メスト(その階段はランチの休憩場所、柵の中にはたくさんのコインが投げ込まれていた。)を見て、待ち合わせ場所へ急ぐ。 Gum百貨店の中に入る時間はなかった。(ちょっと残念)

11:50 ポロヴィツカヤ塔に到着。

12:00 チケット(700P)購入班が大きなOのジェスチャーで到着。再度、厳重な荷物チェックの後入場。



15 スモレンスキー大聖堂のアイコン  
想像より小さかいが、素晴らしいものだった。

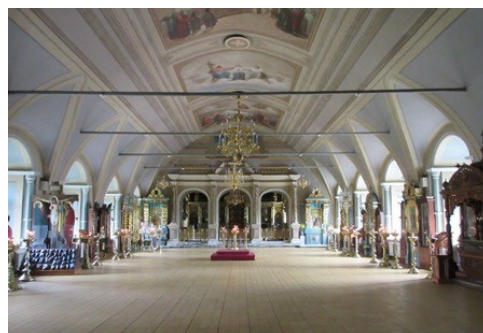
13:00 集合場所で待つも、一部場所を間違え20分遅れ。

13:30 トイレを済ませ、ノヴォデヴィッチ修道院へ行く。メロ ビブリオチェカ・イーメニ・レーナ駅に向かう。4つ目のスボルチーヴナヤ駅へ。

14:00 ノヴォデヴィッチ修道院へ向かう。(親切なベラルーシ人が教えてくれた。)

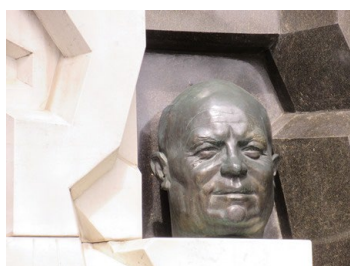
14:20 到着。チケット購入(350P+100P)。自由見学。15:00墓地のエリツインの墓の前集合。修道院は、鐘楼が工事中であったが、スモレンスキー

大聖堂のアイコンとステンドグラスは見事だった。それから隣のウスペンカヤ教会に入るが、信者の方もおり、荘厳な雰囲気。(中国人観光客もおらず静か) 写真の撮影も可能なはずだが、マナー違反があったのか注意を受けた。



16 ウスペンカヤ教会礼拝堂

14:40 ノヴォデヴィッチ墓地に到着。エリツインの墓(ロシアの国旗をあしらったものらしいが、グロテスク)の場所を確認後、有名人や変わったお墓を探しに散策。



17 フルシチョフの墓

変わったお墓は写真に収めたが、有名人はフルシチョフしか見つからなかった。顔が本当にそっくりで、顔だけアップで写真撮影した。

修道院の城壁の外にある湖からの眺めが良いらしいが、見るのを忘れた。残念でした。

スポルチーヴナヤ駅へ戻るが、途中売店でバーガーと飲料を購入し、公園のベンチでランチ。



18 鳩と雀が餌を求めて寄ってくる

たくさんの鳩と雀が餌を求めて、寄ってくる。(日本に雀は少なくなったよね。)

16:00 メトロ スポルチーヴナヤ駅から3つ目のクロポトキンスカヤ駅へ。

16:20クロポトキンスカヤ駅で下車。救世主キリスト大聖堂からクレムリンの景色は見事。

16:40 救世主キリスト大聖堂横のパトリアルシー橋からトレチャコフ美術館へ向かう。

カメラの充電が切れた。どうしよう? 「見知らぬ女」とのツーショットが?

美術館の前にボロートナヤ広場のレーピン像を見る予定が、横断歩道の関係で見られず、直接美術館へ。

美術館の前にボロートナヤ広場のレーピン像を見る予定が、横断歩道の関係で見られず、直接美術館へ。

17:00 トレチャコフ美術館へ入場。(450P+200P)ここも荷物検査、荷物預け。

今日は、金曜日なので、21:00まで開館している。

ここから、今日は自由行動にすることに。(一応、19:30出口にて待ち合わせ。あくまで自由。)

とにかく広くて作品数も多いので、お目当てのものから先に鑑賞することにした。

クラムスコイをはじめとして、シーシキン、ヴァシリーエフ、スリコフ、アイヴァンゾフスキー、ボロヴィコフスキー、ベローフ等々本当に素晴らしい。とにかく、クラムスコイの「見知らぬ女」に、ついで、「ロプヒナの肖像」に出会う。ただただ感激というほかはない。

残念だったのは、あのレーピンの部屋が見つからず、レーピンの作品が観られなかったこと。それと、セーロフの「桃を持つ少女」の展示がなかったことである。

新館へも行きたがったが、新館は通常通り19:00閉館であったため断念。

19:30 待ち合わせ場所にMさん夫妻がいたので、一緒に食事をすることに。ロシア料理が食べたいという意見が一致し、ガイドブックで「ゴドゥノフ」という店を目指すことにした。メトロ3号線でチェアトーリナヤ駅へ向かうため、美術館からノヴォクズネーツカヤ駅まで歩くことにした。途中、飲食店街等があり、「丸亀製麺」の店(外から覗いたが結構入っていて、う



19 上「見知らぬ女」とのツーショット。中「見知らぬ女」UP。下「ロプヒナの肖像」UP。

どんやおにぎりを食べていた。)を過ぎるところまでは、地図通りだったが、分からなくなり、結局通行人に聞く羽目になった。

19:50 メトロ ノヴォクズネーツカヤ駅から1つ目のチェアトーリナヤ駅へ。

20:00 駅から革命広場を抜け、該当の店を探す。見つかったが、営業しているのかどうか。この店にとっては早すぎる客であったのか。店にスタッフも他の客もいない。やがてスタッフが出てきて、OKとのこと。ボルシチ、ピロシキ、ビールを注文。ボルシチには、サワークリームを加えて、



20 ワシリー聖堂の夜景

ピロシキは、具材が違う3種類のものが出てきた。追加で、ウオッカを注文。どれもそれなりにおいしかった。

21:30 薄暗くなってきた。昼間、赤の広場に行けなかったMさん夫妻を、ワシリー聖堂の夜景に誘い散歩する。日中よりも、涼しいし、ライトアップがきれいだし、人(特に中国人)も少なく、快適な散歩であった。

22:30 赤の広場からカメルゲルスキー横町を通り、ホテルに戻る。カメルゲルスキー

横町は、レストランやカフェがオープンテラスを設けている歩行者専用通りだが、金曜日の夜のせいもあったのか、夜遅くまで賑わっていた。乗馬用の馬がいたり、水煙草を吸っている人たちもいた。今日も、1日長かった。疲れたので、入浴後、バタンキュー。

7月4日(土)

05:00 起床。今日も、なぜか早く目が覚めてしまった。今日は移動日なので、荷物の整理。

07:00~8:15 朝食バイキングを、昼食抜きでも大丈夫なようにたっぷりいただく。

09:00 チェックアウト手続。

09:10 ホテルに荷物を預け、出発。



21 チャイコフスキーの像

像の横にベンチがあり、その背に音符が。出だしただけだが、6曲あり、うち4曲は「アンダンテ・カンタービレ」「バイオリンコンチェルト」「白鳥の湖」「悲愴」であることが判明。音楽院の窓越しに、バイオリンの音色を聴きながら、ニキーツキー大通りに進む。

10:40 プーシキン記念碑(よく分からない)を見て、ゴーリキーの家博物館へ行くも、工事中で、中も観られない。暑くまたトイレにも行きたかったので、その隣にあるアルクセイ・トルストイ(「戦争と平和」のレフ・トルストイではない)の家博物館で小憩。



23 アルバート通りは歩行者天国

昨夜通ったカメルゲルスキー横町を進むが、まだ早い時間なので人が少なく、昨夜と全く雰囲気が違う。モスクワ芸術座と思しき建物を見て、大きな通りを横断。少し、歩くと公園に到着。

その公園には、あの「剣の舞」の作曲者ハチャトリアンの像があった。記念撮影をし、休憩。今日は、今までで一番暑くなりそう。

10:00 チャイコフスキーモスクワ音楽院に到着。チャイコフスキーの像の前で記念撮影。

像の横にベンチがあり、その背に音符が。出だ



22 像の横にベンチがあり、その背に音符

11:30 また、暑い中、ニキーツキー大通りを歩き、アルバート通りに。

アルバート通りは、歩行者天国で、結構人がぶらぶら歩いているが、昼時なのにレストランやカフェは人が入っていない。

あまりに、暑く埃っぽいので、カフェに入り、アイスクリームを注文。メニューを指さして「アイスクリーム(90P)」と言っても、全く通じないで、たかがアイスクリームの注文に結局入れ替わり3回注文を取りに来た。ますます

喉が乾いてしまうよ。(ここにある公衆トイレは、10Pでした。)

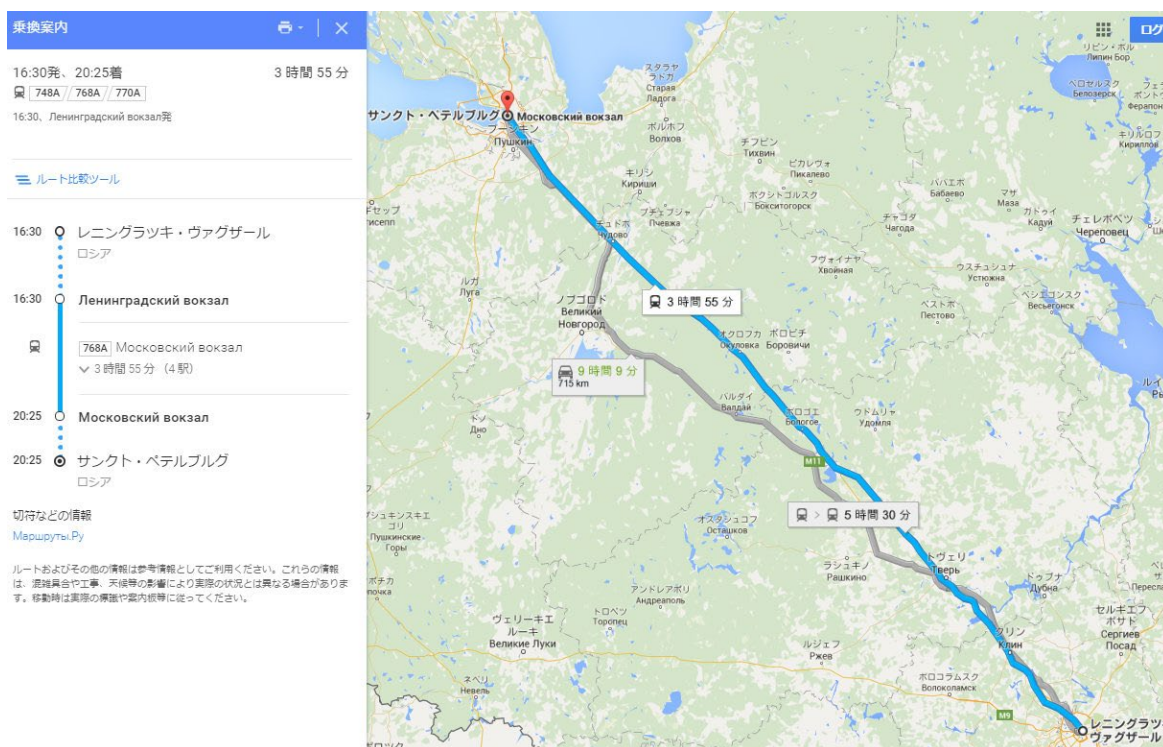
結局、アルバイト通りには、何をしに行ったのだろう。

13:00 店を出て、また徒歩でホテルへ戻る。(13:40)荷物を受け取り、トイレ休憩。

14:10 ホテルを出発。メトロ1号線ルビャンカ駅までキャリーバッグを引きながら歩く。

14:30 1回券(50P)を購入し乗車。3つ目のコムソモリスカヤ駅に到着。

これから次の目的地、 Санктペテルブルクに向かう。



24 モスクワ・レニングラード駅から Санктペテルブルク・モスクワ駅に向かう。都市名と駅名がややっこしい。

ここでサブサン号が発車するレニングラード駅を探すも分からない。通行人等に聞いても、各

人別々の場所を教えてくれる。最終的には、迷った挙句確認できた(14:45)。

かくも迷うのは無理もない。左の図を鳥瞰しても、ホームが「不規則に」並んでいる。地下鉄の駅からは地上に出て歩いて移動する。むろん案内板(サイン)はないに等しい。

であった市民はサブサン号を良く知らないかもしれない。でも親切心で返事があるので、無視もできない。





26

カメラでパチリ。

16:00 乗車。テーブル付きの向かい合わせで着席。

さすがにプレミアムシートだけあって、ゆったりしており、何か偉くなった気分である。

16:40 定刻に発車。発車後、すぐにドリンクサービスがあった。

Mさんご夫婦は、各々白ワイン、ミネラルウォーター、Tさんと彼女は、各々ビール(500ml)、赤ワイン、我々は、僕がビール、妻はアップルジュースを頼んだが何故かオレンジジュースが届いた。ビールは余り冷えていなかったが、喉が乾いていたこともあり、結構美味。

17:30 夕食。運賃込みで日本円12000円相当。なぜか安い。ポーク、チキン、フィッシュから1つを選ぶ。飛行機の食事と同じようなもので、問題なく食べることができた。デザートのカッキーもすぐに食べてしまったが、コーヒーは大分あとになってからサーブされた。Mさんが、別のドリンクを依頼したが、有料であった。飛行機と違い、本当にワンドリンクサービスなんですね。

食事の後は、モスクワでの反省を含めた情報交換と Санкт-Петербург での予定のチェック等をしたが、なかにはうつらうつらしている者もいたようだ。

窓から外を見ると、素晴らしい森林の緑と湖沼のコントラストが見事であった。席を反対側に移って写真を撮ったり大忙し。見渡す限りの平地で、ロシアはさすがに広いなあ実感。

20:40 予定通り、 Санкт-Петербург・モスクワ 駅に到着。ホームに降りると、風もありモスクワより涼しい。ホテルまでの道も確信がないので、とにかく外へ出る。地図と照らし合わせると、出たところは、蜂起広場らしい。目指すメトロ マヤコフスキー 駅を、ネフスキー大通りらしいところから歩く。土曜日の夜ということもあるのか、ものすごい人混み。何とか、ホテルに辿り着くも、今度

サブサン号(和訳はやぶさ・最速250km)の発車時刻は、16:40でまだ時間があるため、KFCでコーラ(70P)を飲み、のどを潤し時間をつぶす。

15:10 入場口に戻ると、もう入場可能とのこと、荷物の検査後入場したが、またさらに進んだところで、もう1度検査があった。

サブサン号が発車する7番ホームに行き、すでに入線している車両の写真撮影。しばらくすると、我々が乗車する、車両が入線してきたので、それも



27 上サブサン号 1 等車。中1等車のワンドリンクサービス。下ディナー。

は入口が分からないよ。レストランと併設している階段を上りやっとフロントへ。



29 フロントの横に、京都の「福寿園」



29 チャイトルグ社長後藤英輔氏

たまたま、ホテルのフロントの横に、京都の「福寿園」の出店があり、その運営法人チャイトルグ社長の後藤英輔氏に出会えた。すごいラッキー。ありがたい手助けがあり、スムーズにチェックイン完了。

21:30 309号室に入る。モスクワのピョートル1に比べると、格段にレベルが下がるが4つ星なので仕方がないね。

21:45 着替えたり、荷物の整理をして、外出。まだ、ものすごい人混み。アニーチコフ橋

まで足を伸ばし、帰りに小さなスーパーで飲料水のペットボトルを購入。(＠60P)ホテルに戻り、お湯を沸かして、コーヒーを淹れ、ポテトチップスを食べた。同時に、シャワー(このホテルは、浴槽がないのだ。)を浴び、歯を磨いて就寝。

今日は、それほど活動しなかった割には、i モスクワで暑かった、ii レニングラード駅でサブサン号の乗り場探し、iii モスクワ駅からのホテル探し、iv チェックインでのトラブル。ということで、とても疲れた。

明日から、 СанктПетербургの本番。

福寿園の後藤氏によると、好天は明日までで、その後は崩れるらしいし、気温も下がるとのこと。何で、京都の福寿園が СанктПетербургに進出したのか尋ねると、「ロシアのお茶の消費量は日本より多く有望な市場」とのことであった。



7月5日(日) 晴れ

05:00 起床。出発準備。

07:30 朝食バイキング。(モスクワのホテル「ピョートル1」より30分遅い。)



30 ホテル「ピョートル1」の朝食会場

メインの料理は、ロシア風(目玉焼き2)、アメリカ風(スクランブル)、コンチネンタル風(タマゴサンド)から選択する。これ以外は自由。何でも食べられる。品数は、ピョートル1より少ない。まずまず。昼食を抜いても大丈夫のように、朝から詰め込む。

コーヒーサーバーからコーヒーをカップに入れると、何故かカップの半分くらいしか入らない。他のボタンを押してみると、今度は止まらないで溢れてしまう。こちらは、自分で

「止」ボタンを押す必要があったらしい。

09:30 ホテルを出発。まず、明日のエカテリーナ宮殿行きチケットを購入する必要があり、ゴスチーヌイ・ドヴォールのカッサへ。何とか英語の解る女性の販売員を見つけ、明日の10:30発のチケットを購入。(1500P) 合わせて、Tさんがニコライ宮殿の民族舞踊ショーのチケットを求めるも、上手くいかず、断念。

10:10 カザン聖堂を左に見ながら、今日本命のエルミタージュ美術館へ向かう。

すでにチケット予約券は入手しているので、人の流れに乗ってネヴァ川側の入場口に向う。すぐに入れるはずと思いきや、ここからは入れない。身振り手振りでどこだと聞くと、反対側の宮殿広場側という。急いで向か並んでいる列につくと、そこは団体客用。しかたな



31 エルミタージュ美術館・宮殿広場



く中庭に入る。案内人不在で分からない。Mさんが飛び回る。やっとのことで、チケットに交換し入場口へ。

11:00 やっと入場。入場口で、飲料のペットボトルは没収され、リュック等の荷物は預けるルール。ここからは、それぞれ自由行動とする。Mさん夫妻とは、今日これ以降は別行動。Tさん達とは、13:30に宮殿広場のアレクサンドルの円柱の下で待ち合わせることにした。この階段で多数の外交官を迎え華やぐ有名な「大使の階段」。ただ、いまや大勢の入館者のざわめきで、往年の雰囲気はまったくくない。とにかく、めっちゃ広い。順番通り観ていたら、時間は確実に不足し、

待ち合わせ時間に遅刻する。有名な画家の絵や話題性のあるものから鑑賞することにした。

ところが印象派の絵がガイドブックにある展示場所にない。案内係に尋ねたところ、宮殿広場前の旧参謀本部の建物に展示してあるという。しかしその絵を観てから、こちらに戻れなかったら本当に遅刻し糺を浴びかねない。同伴の妻とも相談のうえ、とにかく13:30分まで美術館内の展示を鑑賞することにした。

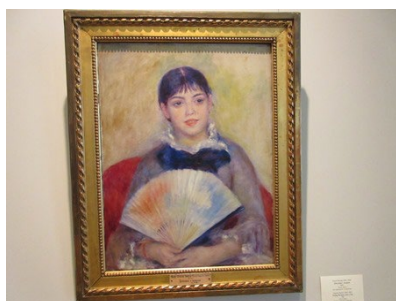
案内のパンフレットを頼りに、いろいろ有名な部屋、飾り物、床の装飾、回廊をはじめとして、絵画では、ダ・ヴィンチ、ラファエロ、レンブラント、ルーベンス、エル・グレコ、ゴヤ等の絵を鑑賞した。もちろん、数多く展示されているピョートル大帝やエカテリーナ二世の肖像画でもある。



32 左 エル・グレコ「使徒ペテロとパウロ」中 孔雀のからくり時計 右 ラファエルの回廊

それから、現在日本で話題になっている「国立競技場」のデザイナーであるザハ・ハディド氏（アンビルとの女王と呼ばれる。）の特別展の展示があったのにはびっくりした。

13:30 待ち合わせ時刻に、宮殿広場に向かう。宮殿広場は、グランウンドスキーのレースに使われており、アレクサンドルの円柱の下にはいけないが、出口のところで合流。印象派の絵



33 ルノワール「扇子を持つ女」「ジャンヌ・サマリーの肖像(部分)」

画が旧参謀本部の建物にあるのをまだ疑心暗鬼のまま行ってみる。

入口らしいところがあり、何となく屈強な男性ガードマンがいて、入りづらかったが、そのまま進むと正解でした。



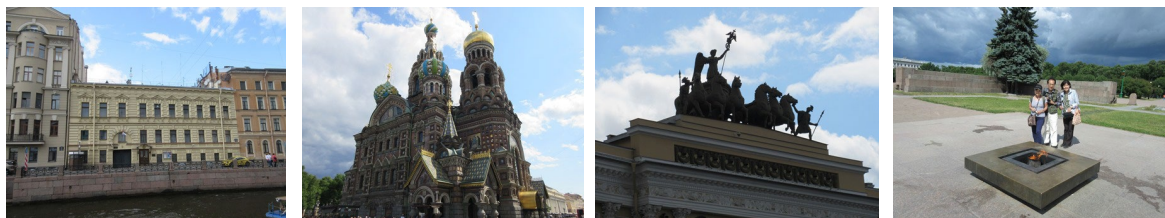
34 右モネの作品・左は不詳。たくさん見たので思い出せない。

やっと、モネ、セザンヌ、ルノワール、ゴッホ、ドガ、ゴーギャン等の絵画に巡り会え、ほっと一息しながら、一気に鑑賞。さすがに凄い絵画ぞろいでした。大満足。美術館があんなに混んで

いたのに、こちらはガラガラで、じっくり観ることができた。きちんと周知されていないから、分からない人が多かったのだろう。出口で、Mさん夫妻にバツリ会う。

14:30 エルミタージュ美術館に別れを告げ、血の上の救世主教会へ向かう。

モイカ川に沿って向かうと川の対面に在ロシア日本総領事館の建物があつた。日の丸がさびしく揺れていた。



35 左から在 Санкт-Петербург 日本総領事館・血の上の救世主教会・参謀本部前・マルスの原「永遠の火」

血の上の救世主教会(1881年アレクサンドル2世が暗殺された場所に立つ、純ロシア風教会)は赤の広場のワシリー聖堂に似てネギ坊主聖堂だが、名前からやや暗い感じがする建物である。われわれの位置からでは写真が逆光になり、うまく撮れない。また機会があるだろう。

しばらく休憩し、そこから、マルスの原に進む。きれいな芝生の広場で、芍薬に似た花がたくさん咲いている。芝生も日本と違い、地面が固い感じがする。

この広場には革命や内戦で犠牲となった人々が葬られているとのこと。ここには「永遠の火」が燃えているが、1957年からで、クレムリン脇の無名戦士の墓の永遠の火もここから分火したもののらしい。

そこからさらに、大理石宮殿(行けなかったが、エカテリーナ2世が愛人のひとり、のために建てた宮殿で、装飾には大理石がふんだんに使われているそうだ。)を左に見ながら、ネヴァ川を跨いでいるトロイツキー橋を渡りペテロパブロフスク要塞へ向かう。夜になると、大きな船を通すため橋が上がるらしいが、継ぎ目が分からない。

15:30 ペテロパブロフスク要塞に到着。

Санкт-Петербургの歴史は、この要塞の建設から始まったと言われている。1703年5月に、ピョートル大帝は、この兎島と呼ばれるネヴァ川中洲の小島に要塞を建設し、当時強国であったスエーデンと争うための足掛かりとしたのだ。実際、要塞としての役割はなく、もっぱら監獄として使用されたいらしい。

敷地の中心あたりにピョートル大帝の座像があるが、大男だったことを表現するためか、異常に手足が長く造ってあつた。この島の真ん中あたりにペテロパブロフスク聖堂があり、その鐘楼の高さは122mで町の中心部では一番高いとのこと。時間がないので、内部の見学は止め、景色が良いといわれるナルィシキン稜堡上の遊歩道へ。(300P)

ネヴァ川を挟んで、エルミタージュ美術館等の景色は素晴らしいが、これで300Pは高いよ。良い景色が見られたと言いついで聞かせ、ニコリスク門から退場し、宮殿橋方面に向かう。途中、よい感

じの遊歩道もあったが、歩きすぎて若干足にきておりパス。

証券取引所橋を渡り、ロストラの灯台柱に到着・休憩。露店から、茹でたトウモロコシ(@130P)の良い匂い、ペテロパブロフスク要塞の遊歩道に上がらなければ…。支払った300P、返してほしい。そう言えば、今日昼飯どうしたっけ。我慢して、持参したチョコレートでごまかす。このロストラの灯台柱は、2本あり、高さは32m、1810年に建てられた。ロストラとは、船首の部分の意味し、敵の船首を切り落とし、柱の飾りとして勝利を記念する古代ローマの習慣に由来するそうだ。

このヴァシリエフスキー島のクンストカメラ(1734年にできた美術や骨とう品が陳列してある博物館)とメンシコフ宮殿(ピョートル大帝の側近であったアレクサンドル・メンシコフの宮殿)を見学する予定であったが、疲れて気力もなく、止めることに。そこからタクシーでという声もあったが、その声を聞こえなかったふりをし、歩いて宮殿橋を渡り、ネフスキー大通りに出てホテルに戻った。

18:30 ホテルに到着。福寿園・後藤氏の店がまだオープンしていたので、おいしい日本茶



36 トロイツキー橋・ペテロパブロフスク要塞の入口・ピョートル大帝の座像

をいただく。後藤氏にどこかロシア料理でおいしくて安い店を紹介してほしいとお願いすると、連れて行ってくれるという。お店が閉まる19時にホテルを出て、まずルーブルの両替の店を紹介してくれた。

日本で両替するなんて、もったいないと言われてしまった。1万円が4,450P(1P=2.25円)両替してくれた。成田空港が2.72円だったから、そう言われるのも無理はない。(6,000P以上損)でも、リスクを考えると止むを得ないと、自ら無理やり納得させる。フィンランドに本社を置くストックマン(CTOKMAHH)ビルの5階にあるカフェテリア方式の店に行く。観光客はあまり来ないそうだが、結構賑わっている。スープ、カツレツ等注文、ものによっては量り売りのものもあり、安くても量が多い。ワインも1グラス109Pと安いし、おいしい。食事後、ストックマンのスーパーに寄って、飲料を購入。今日は水と、超辛口の炭酸水とクヴァース(kbac)もお試しで買ってみた。飲むと、結構おいしい。 ◆

7月6日(月) 晴れ

06:00 起床。

07:30 昨日は、コンチネンタル風だったので、今日はロシア風を頼んだ。目玉焼きが2個ついてくるもので、目玉の黄色が日本のものより薄い色だ。昼食を抜いても良いように、しっかりとお腹に詰め込む。

09:30 ホテルを出発。Tさんの彼女は、今日先に日本に帰るのでキャリーバッグ持参。ゴスチヌイ・ドヴォールへ徒歩で。カッサでバスを確認後、明日のペテルゴフへのチケットを購入(1,900P)。

高いと思ったが、明日の天気が雨の予想であり、バスで行くことに。(高速艇は断念)。

10:20 エカテリーナ宮殿行きと思われるバスが到着したので、チケットを見せて乗り込む。若い女性が乗り込んできて、DVDを配り始める。ロシア語で何かまくし立てている。その後カレンダーを配り始める。プレゼントなのかと思ったが、何となく嫌な予感がしたので、全て返却した。押し売りみたいなものであった。

10:30 定刻にバスは出発。ガイドと思いきおばさん風の人が乗り込み、バスで目的地に向かう途中ずっとロシア語で間断なく演説をしているみたいに話し続けている。何も分からないし、バスの中は陽射しが強く、暑く、睡魔が襲う。



### エカテリーナ宮殿

12:10 宮殿内に入る。靴の上に、紙でできた袋をつける。ガイドは、宮殿専門の女性に代わる。建物の内部や展示物は、これらの建物に共通の金ピカの飾りや彫刻、絵で溢れかえっている。



これらに食傷気味の中で、「目覚める天使像」の彫刻や子供たちが使ったと思われる人形や木馬に癒された。また、有名な「琥珀の間」は、写真も撮れないが、さすがに見ごたえがあった。

### 「目覚める天使」の像

### ナチスドイツに壊され、それを復元する写真



出口の近くに、宮殿がナチスドイツに壊され、それを復元する写真が展示されていたが、少し考えさせられた。

トイレ休憩の後、また、元のガイドに戻り、庭園の見学。

### エカテリーナ宮殿の庭園



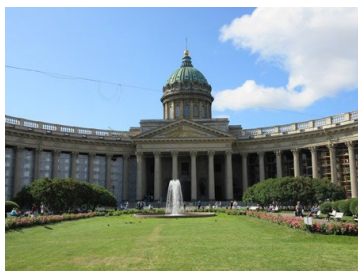
木々の緑と池と手入れの行届いた花のコントラストが美しい。ただ、庭園で写真を撮ってもらった時、ホンの数ミリ芝生に入ったら、警備員に笛を吹かれ注意をされた。今回のエカテリーナ宮殿見学は、一種のツアーであり、ガイドの説明がロシア語オンリーのため理解できないが、その他についてはスムーズに見学できている。Tさんと彼女は、ガイドの説明には加わず、

先に急いで見学し、ここからタクシーで空港に向かったらしい。Tさんもタクシーを送るまで一緒だったため、われわれとは別行動。何とか合流できれば良いのだが。あのガイドは、何となく、バスへの集合時刻が14時と言っていた。全て、コースの見学が終了し、お土産・トイレ休憩。(トイレは40P。ただし、ツアー客は無料。)バスが来そうな場所に、Tさんが現れないか、見張っていると、2度目に確認ができ、大きな声で呼び止め、事なきを得る。

全員、ホッと胸をなでおろした。

14:15全員、無事にバスに乗り込み、出発。帰りのバスでもガイドはしゃべり続けてうるさかったが・・・おやすみなさい。

15:30 ゴスチーヌイ・ドヴォールに到着。この後、計画ではアラクサンドル・ネフスキー大修道院とチフヴィン墓地に行くことになっていたが、時間の余裕がなく中止し、まず近くのカザン聖堂に行くことにした。



外観は何度も通るたびに見ていたが、中に入ってみると(無料です。)さすがに Санкт-Петербурクにおけるロシア正教会の中心であることより、実際多くの信者が祈りを捧げており、荘厳な雰囲気を感じられた。

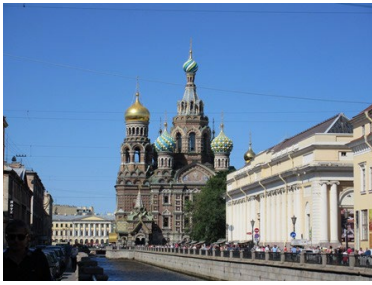
### カザン聖堂外観



特に、主祭壇の左には「カザンの聖母」イコンが掲げられており、礼拝の人々が列をなしていた。

### カザン聖堂内部・主祭壇の左には「カザンの聖母」イコン

そこを出て、前にも行った血の上の救世主教会へ向かう。



### 血の上の救世主教会

前は、エルミタージュ美術館方面からで、写真撮影には逆光だったが、今回のグリボエードフ運河からは最高のスポットなのだ。

14:00 芸術広場へ。



### 芸術広場のプーシキン像

プーシキン像をロシア美術館をバックにカメラに収め、ロシア美術館へ。

### ロシア美術館の建物



ロシア美術館の建物は、ミハイロフ宮殿を使用しているということで実に立派で堂々としている。

16:20 ここでMさん夫妻と別行動とし、3人でロシア美術館入場。ここはあまりチェックが厳しくない。

モスクワのトレチャコフ美術館より規模も収蔵品数も少ないが、こじんまりしていて鑑賞しやすい。



アイヴァゾフスキー「第九の波」



左・シーシキン「カバの森の中の小川」



右・ペーロフ「巡礼者」

## スリコフ「ステパン・ラージン」のアップ



今回知って大ファンになった、ロシア絵画(クラムスコイ、レーピン、シーシキン、スリコフ、カンディンスキー、アイヴァゾフスキー、ヴァシリエフ、イワノフ、レヴィツキー、ポロヴィコフスキー、セローフ等々)を堪能した。順に鑑賞していると、いきなり扉を閉じられ、何かと思ったら18時の閉館時刻であった。時間が短かったような気がして、ロシア美術の真髄を反芻するように、美術館の外の庭園のベンチでしばしボーッと休憩。

19:00 ホテルに到着。

19:20 Mさん夫妻は、食事を済まされたとのことなので、3人で昨日のСТОКМАННビルの5階レストランへ。今回は、慣れた手つきで(手振りで)、ボルシチと焼きそば(麺は日本蕎麦)に白ワインを注文。(メテ477P) ボルシチは前の順番のロシア人に習ってボウルに具を重点的に大盛りによそった。

食後、地下のスーパーに立ち寄り、お土産用のチョコレート等を購入。

21:30 ホテルに戻り、シャワーを浴びたり、お茶を飲んだりして、明日の天気を心配しながら、

23:00就寝。



7月7日(火) 曇り時々雨 日本では七夕ですね。

06:00 起床。7:30~朝食。今日は、アメリカンを注文。お腹いっぱい詰め込む。

09:15 ホテルを出発。今回の旅行で初めての雨。徒歩で、ゴスチーヌイ・ドヴォールへ。

10:00 バス入線。10:15出発。ガイドの女性、目的地に着くまでずっと演説をしているかのようにしゃべり続けていた。もちろんロシア語なので、何を言っているのかちんぷんかんぷん。

11:20 ペテルゴフ(ユネスコの世界遺産)に到着。雨は、降っているが、弱まっている。



トイレ休憩だが、有料で20P。男性トイレの台が高いけれど、ロシア人でこんなに足が長いのかなあ。

### 男子トイレ小使用

11:30 夏の宮殿・下の公園に入場。(500P) ガイドが案内してくれるが、ただついて行って写真を撮っているだけ。噴水、各種あり、面白い。

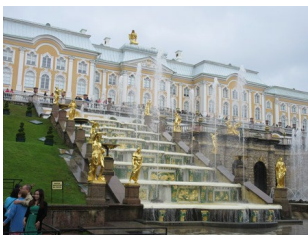
### 大滝の「サムソン像」



特に、大宮殿前のテラスを利用した大滝はすごいし、その中心にある金色のサムソン像は、一番高く水を噴き上げている。筋肉モリモリのサムソンが、ライオンの口を引き裂いている銅像だが、これは、スウェーデンとの戦争に勝利した日が「聖サムソン」の日だったことと、ライオンがスウェーデン(国章にライオン)を表しているらしい。

雨もほぼあがり、フランスの噴水・ローマの噴水・チェスの山の滝・ピラミッドの噴水・傘の噴水・いたずらの噴水等をガイドについて回る。

### 大滝から大宮殿



12:45 大宮殿入場。(550P) ツアーで行くと、個人客より早く入場できるので便利。エカテリーナ宮殿と同様、荷物を預け、

紙のオーバーシューズを履き、別のガイドについて、展示を鑑賞。相変わらずキンキラキンの装飾等が多く、またかという感じである。ただ、印象に残った部屋が一つ、「絵画の部屋」だ。壁一面に人物画が展示されているが、それぞれ表情が豊かで、インパクトがあった。

13:45 大宮殿を退出。外に出るが、今回はガイドの姿が見えない。(いやな予感)

仕方がないので、同じバスできたグループをマークしながら…。突然、マークしていた男女4人組が移動。すかさず、Tさんが追跡、そのあとをMさん夫人が追いかけて、戻ってすぐ来るようにとの合図。Mさんを残しTさんの姿を追いかけて探しても見当たらず。やむを得ず、引き返すとMさんが、バスの他のメンバーがバスの方向に移動したようだとのこと。Mさん夫妻はメールで連絡が取れ

るので、Tさんのことが心配だが、Mさんを残し3人でバスに向かう。我々のバスがあり、ガイドも中におり、Mさん夫人が確認したところ、集合時間は14:30とのこと。また、往きにバスに乗った人全員が帰りのバスに乗るとは限らないと言うらしい。現在、14:20なので、Mさんに至急戻るよう連絡、Tさんは行方不明。ガイドは、何も対応してくれず、仕方なくTさんをおいてバスは14:40に出発した。こうした事態におけるTさんの対応力は、人間離れしたところがあり、何とかしてくれると信じていた。

16:15 市内が交通渋滞で、少し遅れてゴスチーヌイ・ドヴォールに到着。往きのバスで、あれだけ熱演していたガイドも、帰りはずっとだんまり。静かで良かったが・・・無責任だよね。

17:00 Tさんと連絡をとるには、ホテルに戻るしかないため、途中KFCでランチ兼夕食のチキンサンド(76P)を買い部屋に戻る。Tさんの305号室に内線電話をしたが、やはり通じない。

今夜は、Mさん夫妻は19:00からマリインスキー劇場でのオペラ「椿姫」の鑑賞、残る3人は20:00からミハイロフスキー劇場でのバレエ「白鳥の湖」の鑑賞を予定している。

お湯を沸かしコーヒーを淹れ、買ってきたチキンサンドを一口食べようとしたその瞬間、電話が鳴り、急いでとるとTさんからの内線だった。「今、戻った」とのこと。一安心。部屋で状況話をしてもらおうと、往きのバスに同乗していた男女4人組は、今日は現地に泊りバスでは帰らない人達だったのだ。それが分ったのが、14:30少し前で急いでバスに戻ったが間に合わなかった。仕方がないので、苦労しながら(いろいろあったようだが・・・)バスとメトロを乗り継いで帰ってきたとのこと。さすがTさんの対応力はすごい。バレエには、18:30発を約し、やっとチキンサンドにありつく。

明日のホテルからプールコヴォ空港までのタクシーの手配が必要で、フロントへ行くと、ちょうど福寿園の後藤氏が戻ったところ。協力してもらい、予約完了。(13:00ホテル発・1, 230P 5人乗ミニバン)

18:30 ホテルを出発。雨が降っていたので、後藤氏からは、バスで行くことを勧められたが、不安なのと雨が小降りになっていたので、徒歩で向かうこととした。ミハイロフスキー劇場の建物はわかったが、入口が分かりにくい。少し右往左往したが、比較的早く入場できた。荷物を預け、受付へ向かう。受付嬢は、美人で英語の話せる人で、席は3階と案内された。3階へ階段を上がるが、時間が早すぎて扉の中には入れず、入口付近のベンチで待機する。(その案内嬢も美人だ。)

一応用をたしておこうと、トイレ(便座付)に入り、小なので便座部分を上げたが、上で止まらず閉口した。(美人の案内嬢にはちょっと言えないよね。)

### ミハイロフスキー劇場



19:30 いよいよ開場。写真撮影は禁止だが、開演前はOKらしく記念撮影。劇場内も一通り撮影。席は2, 300Pの席で、3階の左奥2列目。Mさんの隣に母と3人娘(皆美人・かわいい)が座ったので、こっそり記念撮影。前の1列目の人が太めで観

ずらいな。

20:10 オーケストラの演奏開始。とにかくバレエなんて生まれて初めて、日本でも見たことがない、きっと昼間の疲れで眠ってしまうだろうと心配していたが、幕が上がったその瞬間、その美しさに目を見張った。オーケストラも素晴らしく、踊りも素人目だがレベルが高く、とにかく美しいのだ。演技者の体型から、踊りの躍動感・しなやかさは格別で、残念ながら日本人のダンサーは、体型面でハンデがあるかなと感じた。(失礼な言い方ですね。)

21:15 出演者全員の挨拶があり、もう2時間たった(勘違い)ので終わりかと思い、退席し下に降りて荷物を受け取るが、同伴者2人からまだ終わりではないのではと言われ、あの美人の案内係に確認をしたところ、「not finish」と言われ、慌てて再度荷物を預け席に戻った。休憩時間だったのだ。この有名なバレエのストーリーも知らないなんて、「まだ、ブラックスワンもでてきていないよ。」と笑われてしまった。危ない！危ない！ 30分くらいの休憩の後、また舞台が始まる。

#### バレエ「白鳥の湖」チュチュ姿が可愛い



#### バレエ「白鳥の湖」の王子とオデット

ほっとしながら(実は恥ずかしさで赤面しながら)、ブラックスワン(オディール)の妖艶な踊りや悪魔をやっつける王子と白鳥(オデット)の応援をしながら、さらに純白のチュチュ姿の白鳥たちの可愛らしい踊りに魅了された。眠くなるなんてとんでもない。ロシア最後の夜にこのような機会を与えてくれたMさん夫妻やTさんに感謝。

23時過ぎに劇場を出て、お土産屋の「オネーギン」の場所を確認し、ホテルへ帰る。

1:30 シャワーを浴び、就寝。(興奮してなかなか寝付けなかった。)

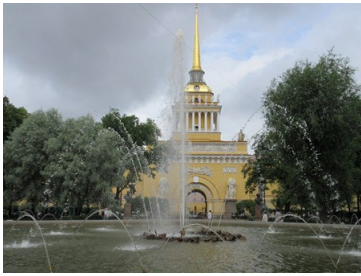
## 7月8日(水) 晴れ

6:00 目覚まし時計で起床。眠い。今日は日本に帰る日なので、荷物の整理。

7:30 朝食。今日はコンチネンタルを注文。今日もたらふく食べる事ができた。

9:20 チェックアウト。タクシー代(1, 230P)を支払い、荷物を預ける。

9:30 Tさんと3人で外出。Mさん夫妻は、別行動。当初の予定ではなく、行く予定で行けなかった場所にした。ネフスキー通りを歩いて、いつものようにアニーチコフ橋を渡り、一路エルミタージュ美術館の隣にある旧海軍省へ。



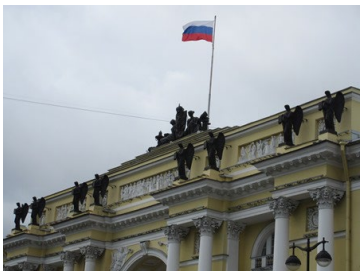
歴史ある立派な建築物でアレクサンドロフスキー庭園の噴水からが撮影のベストスポット。

### アレクサンドロフスキー庭園の噴水から旧海軍省

### ピョートル大帝像「青銅の騎士」



ここから、デカブリスト広場へ。もともとは「元老院広場」の呼称だが、1825年12月に起きた「デカブリストの乱」(専制政治や農奴制に反発して青年貴族たちが起こした反乱)にちなんでこう呼ばれるそうである。この広場の中央には、ピョートル大帝像「青銅の騎士」が立っている。ここから、ネヴァ川を挟んで、メンシコフ宮殿やクンストカメラの建物が良く見える。

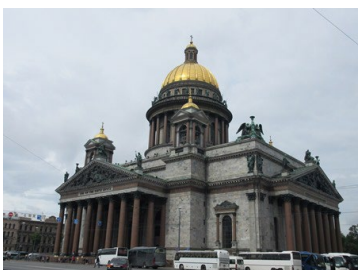


元老院の建物を右に見ながら、イサク聖堂に向かう。

### 元老院

ここで、アレクサンドル・ネフスキー大修道院とチフヴィン墓地へ行くTさんと別行動となる。

### イサク聖堂



イサク聖堂は、帝政ロシアのシンボルとして1858年に建設され、高さ101.5m左右の幅97.6m奥行111.3mの規模で、完成までに40年(土台作りだけで5年)を費やしたと言われている。イサクの名前はビザンチンの修道士であった聖イサクに由来する

そうだ。今日イサク聖堂は、休館日のため内部見学ができないが、ドーム部分の高さが60mある展望台には上ることができるので、エッチラオッチラ260段の階段を上った(150P)。かいた汗も涼しい風がぬぐってくれるし、評判通り、サンクトの街中が一望でき、昨日まで廻った建物等を地図を見ながら反芻できた。下りももちろん歩いて下りなければならないのだ。

11:00 モイカ川に沿って、ネフスキー通りへ向かう。

11:30 昨日確認した芸術広場近くのお土産店オネーギンでお土産を。チェブラーシカのぬいぐるみが欲しかったが、置いていないので、仕方なく定番のマトリョーシカを孫たちのために2個購入。

それ以外に、小物を見繕い、ホテルに戻る。

12:30 ホテルのロビーではMさん夫妻が福寿園で日本茶(玉露)を呑んでいたのので、我々は普通の煎茶を注文。サービスで、特製わらび餅をつけてくれた。

### 福寿園のわらび餅



後藤氏のいうことには、わらび餅の原料のわらびは、日本のものもほとんどロシアでできたものだそうだ。でこぼこ道を、奥地に入って仕入れてくるそうなのだ。(びっくりですね。)

ほどなくTさんも戻り、タクシー待ち。30分遅れで、5人乗り1台ではなく、2台来たが、料金は変わらず、分乗してプールコヴォ空港へ向かう。タクシーの運転が荒っぽく、怖い。パリも、結構ひどいと思ったが、それ以上で、車の運転が好きな僕でさえロシアでは運転したくないよ。

14:10 空港に無事到着。チェックインカウンターへ向かうが、ここも中国人で溢れている。重量オーバー(5kgも)に対して、荷物の持ち込みを拒絶されると、ツアーの添乗員が飛んできて、女性の係にお金を掴ませようとしている光景を見てしまった。(当然笑って拒絶しましたよ)こんなこともあり、チェックインに手間取るが、15:20発の予定が15分遅れることになり安心。チケット発券後、荷物検査が厳しい。上着も脱がされ、ベルトも外されたりしたが、無事通過し、搭乗口へ向かう。

15:30 搭乗。15:40動きだし、15:48テイクオフ。

16:00 パン(サンド)とコーヒーのサーブ。

16:45 モスクワ シェレメチェヴォ空港にランディング。

17:00 国内線から国際線へ移動。これも福寿園の後藤氏から伝授されていたので、スムーズに移動できた。出国手続、パスポートと顔のチェック、不思議そうな顔をされたので自発的に帽

子を脱いたらOKサイン。その後、身体検査だが、上着を脱ぎベルトを外した状態で手を上にあげレントゲンの機械を通過させられ、ボディチェックも入念。ズボンのポケットに入っているものを出せとのことで、ポケットティッシュと飴を見せたら通してくれた。

搭乗口集合時刻18:20まで時間があるので、各自お土産店等を覗いたりしながら時間をつぶす。

18:20 搭乗開始。

19:00(日本時間7月9日(木)午前1時) テイクオフ。一路成田空港へ。10:30頃到着予定。

帰りの10時間は長く感じる。それに、行き(日本製)と違って食事もロシア製で味が落ちる。

何とか落ちないようにと祈りながら、うつらうつらするが、眠ったと思うと、飲物だったり食事だったりで起こされてしまう。うまくいかないものだ。

7月9日(木)10:30 ほぼ予定通り、成田空港にランディング。

下りたところで、疲れているのでそのまま解散。

出国手続と税関に申告書を提出し、京成スカイライナーで、日暮里へ。JR山手線を乗り継ぎ京王線特急で13:00過ぎに自宅へ到着。

ほっとして、疲れがどっとでたが、この手作りの旅、いろいろハプニングもあったし、何と楽しかったか表現できない。普段の旅にはない達成感というか、そんなものが湧き出てくる凸凹珍道中でした。Tさんと彼女、Mさん夫妻のお蔭で、このような旅ができた。オーチン ハラショー 本当に、感謝！感謝！スパシーバの一言プラスヤッターですか？

この凸凹珍道中の話が、皆様のお役にたてれば幸いです。70歳近い年寄りたちでも、やればできるのです。ぜひ、チャレンジしてみてください。